

奈良先端大トップ評価 ■ 地方大は苦戦

国立大初の「ランク付け」

2004年度に法人化された国立大学の研究や教育などを6年間で評価して、各大学の10年度以降の予算に差をつける初の「運営費交付金の評価反映分」の内訳が24日わかった。最も評価が高かったのは奈良先端科学技術大学院大で、低かったのは弘前大だった。大学の予算規模によって反映額は違うものの、東京大がプラス2500万円で一番高く、逆に琉球大がマイナス800万円と最も削られた。(編集委員・山上浩一郎、石川智也) 37面に大学の一覧表

新年度交付金に反映

政府は、国立大に基礎的な日常資金として運営費交付金を支給している。今回は、全86大学の交付金計約1兆2千億円のうち、教育や研究にあてる費用を除く、事務局の光熱・通信費などにかかる「一般管理費」の1%分、計16億円を評価反映分の原資にあてた。すでに文部科学省の国立大学法人評価委員会が公表している、①教育水準②研究水準③教育研究達成度④業務運営達成度の四つの評価結果をもとに大学ごとに反映分の基礎になる「ウエイト」を算定。さらに評価反映額を計算し、各大学の拠出額

を出した。

文科省によると、ウエイトの計算上の最高点は91で、トップの奈良先端科学技術大学院大が70だった。滋賀医科、浜松医科と続く。いずれも研究水準や業務運営達成度などが高評価を受けた。これに対して弘前大が35・39で一番低かった。全体で見ると、旧帝大など大規模な総合大学は相対的に上位にある。一方、教員養成系の単科大や地方大はおおむね評価が低く、金額が変わらなかつたり、減らされたりした大学が多かった。

また、評価反映分の増額となつたのは、東京大2500万円のほか、東京工業大1600万円、京都大1300万円が上位で、減額となつたのは琉球大マイナス800万円、信州大同750万円、弘前大同700万円だった。

国立大は法人化の際、1期6年間の評価で交付金に差をつけることを方針として決めた。今回は教育研究に直接響きにくい一般管理費だったが、小規模校では経営に響く可能性が高い。

■国立大運営費交付金の評価反映分

Table with 3 columns: University Name, Total Evaluation Weight, Evaluation Reflection (100,000 Yen). Top 10 list includes Nara先端科学技術大学院 (70.00, 400) and others.

総合評価ウエイトは、教育・研究の水準、業務運営達成度などの評価項目ごとに算定したもの。合計。最高値は91・00

Table with 3 columns: University Name, Total Evaluation Weight, Evaluation Reflection (100,000 Yen). Bottom 10 list includes Yamanashi (38.18, -450) and others.

■国立大運営費交付金の評価反映分 = 1面参照

Main table listing all 86 universities with their evaluation scores and reflection amounts. Includes names like 奈良先端科学技術大学院, 滋賀医科, etc.